

● もの知りアグリ部会

大貫恭平委員長

次に、もの知りアグリ部会の方、発言をお願いします。



41 番 西田晴香議員

宇都宮中央女子高等学校 2年 西田晴香です。

宮のもの知り達人検定について質問します。

募集要項の受験資格の欄には、出題は日本語のみですと書いてありましたが、国籍の制限はないと書いてあったので、もし日本語が少ししか読めない外国人の方が、この検定を受ける場合、問題や選択肢が英語表記の問題用紙や問題集を作る計画はないのですか。

大木雄一郎観光交流課長

外国人への対応ということでございますね。

本来、私どもが目指しております、宮のもの知り達人検定制度は、宇都宮市民、日本人を想定しており、多くの資源に恵まれた都市である宇都宮に、誇りを持って欲しいというところから発想が来たところでございます。

いずれにしましても、外国人が宇都宮市民ではないということではなくて、多くの外国人のみなさんも宇都宮市民として活動しております。今後、実行委員会の中で外国人への対応を検討していきたいと考えております。以上です。



大貫恭平委員長

ありがとうございました。

続いて、質問をお願いします。

37 番 長谷川慎也議員

鬼怒中学校 3年 長谷川慎也です。

僕たちは、もの知りアグリ部会で農業について色々調べているうちに、農業にはたくさん問題があることを知り、一つ一つの問題を解決していくのはなかなか難しいと思いました。

僕たちは、それらをまとめて解決する方法を考えましたので提案します。それは、将来の担い手を育成するために、市からJAに、農業に興味を持っている人を集めて、会社を設立する活動を委託していただきたいということです。同じ目標を持つ人達が社員として集まることにより、新しく



農業をやる不安や、一人で農業をやる不安が軽減することができ、しかも、会社という一つの企業のサラリーマンとなることで、安定した収入を得られると思います。

主な活動は農業ですが、気候に左右されるという問題があるため、収入が安定しないことから、サイドビジネスとして、生産した野菜や米などを消費者に届けることや、その他に一般の人々のものを届ける輸送業をすれば良いと思います。ただ、それは輸送業界に参入することになるので、かなり大きなリスクがありますが、農業をやっているという利点から、何か工夫した輸送業をやっていれば良いと思います。このような活動は可能でしょうか。ご回答よろしく申し上げます。

大貫恭平委員長

ただいまの質問について、市の回答をお願いいたします。

手塚英和経済部次長

長谷川議員さんのご質問にお答えいたします。

宇都宮あるいは日本が抱えている農業の問題を、いっぺんに解決する方法ということで、農業にやる気のある人をまとめて法人を作って、その法人が農作業や輸送業をやってはどうかという提案だと思いますが、日本の農業というのは、諸外国に比べまして、どうしても土地の面積が狭いということで、効率的な部分でどうしても差があります。

そのために、日本の農業を守っていくために、関税という障害を作って今まで守ってきているわけですが、効率性を高めていく上で、やる気のある人達をどんどん集めまして、専門的な知識を持ちながら農業活動にあたっていく、そういう組織化をすることは非常に有効だと思っております。

宇都宮市におきましても、地域の中にいくつかそういう組織を作っております。現在、宇都宮では15～20の組織があります。そういう人たちが、自分たちの機械を持ち寄り、交替に田んぼを耕したり、刈り入れをしたりとか、そういう作業を共同で分担しております。経理につきましても、売ったお金をみんなで作業に応じて分け合ったり、そういった組織化を進めておまして、これからも増やしていくことが必要だと思っております。

なお、最後に提案のありました輸送業との兼務ではありますが、年間を通して農作業ができるような工夫と併せて、そういった別の事業に取り組んでやりくりできるかといったことも、検討の一つになると思っております。



大貫恭平委員長

ありがとうございました。

質問者が半数を終了しましたので、休憩いたします。再開は10分後といたします。

なお、再開後の進行は、副委員長と交代いたします。ありがとうございました。